GROUNDSCAPE DESIGN youth

本日は、御多忙の中、我々GROUNDSCAPE DESIGN youth発足会にお越し頂きまして心より感謝を申し上げます。
我々GROUNDSCAPE DESIGN youthでは、人々の交流に重きを置き、そのつながりを継続し育てることで、組織としての意義や価値が生まれると思っております。本組織を発足するにあたり、多くの方々とその瞬間を共有したいという願いとともに本日の発足会の準備を進めて参りました。

第一部では、コラボレーションを掲げる前提として、様々な分野で学ぶ会員各人の専門を知り、共に考えることを目的とした発表会を行います。学生生活の集大成である卒業・修了論文、及び設計を論文5名、設計4名の計9名の会員にプレゼンテーションして頂きます。
第二部では、本組織の発足を高らかに宣言し、現在に至るまでの経緯と今後の展望をご紹介致します。そしてGROUNDSCAPE DESIGN youth会員になる皆様とご一緒に決意表明を行う所存にございます。皆様方からのご理解を頂き本組織の第一歩を共に踏み出し、またGSデザイン会議の皆様には暖かく見守って頂けましたら幸いです。
GROUNDSCAPE DESIGN youthは、参加される皆様一人一人が主役の組織です。是非とも本日の発足会をお楽しみ頂けますよう、事務局一同、心よりお祈り申し上げます。

今後も、我々GROUNDSCAPE DESIGN youthは組織として、会員1人1人として魅力ある組織にしていくべく努力していく所存にございます。皆様と今後、共に歩んでいくことを心からお待ちしておりますので、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

GROUNDSCAPE　DESIGN　youth　事務局

目次

01 ご挨拶

02 目次

03 発足宣言

04 篠原修先生の言葉

05 内藤廣先生の言葉

06 年間スケジュール

07 役職

08 発足会プログラム

09-10 発表者紹介

11 GROUNDSCAPE DESIGN WORKSHOPの歩み

12-13 関連団体の活動紹介

・九州デザインシャレット/Kyushu Landscape League(KL2)

・景観開花。

14 WORKSHOP参加者の活動の広がり

15-17 浦安境川見学会報告

18 次回企画告知

19 発足会準備メンバー一覧

20 企画発案用紙

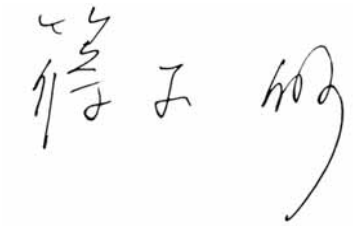
21 入会申請書

「志ある若者たちよ、我々の戦線に加わらんことを願う。」

この言葉のもとに集まった仲間たちと学んだ、コラボレーションという対話。
そして感じる、コラボレーションの可能性。
景観において、領域に閉じこもる事は景観へ無関心な事に等しい。
未だに対話できない人々、そこに立ちはだかる幾重もの壁・・・
景観は複雑になりすぎた。だが、僕らはそれを解決する術を知っている。
コラボレーションという術を。我々は大きな一歩を踏み出したのである。
この仲間とでしか出来ないことがある。
この時を共有できた仲間と、真剣に考え、創造していきたい、新しい景観の未来を。

皆で、難攻不落に見える大きな敵に果敢に立ち向かおうではないか。
先代が築いた土台は堅い。必ずや視界は開ける。
ここに、GROUNDSCAPE DESIGN youthの発足を宣言する。

代表一同



GSデザインユースの若者達へ

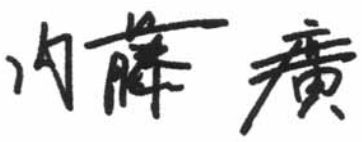
平成８年、都市計画家加藤源さんに誘われて北彩都旭川のプロジェクトに参加した。ややあって駅舎のデザインを担当してくれる建築家を募ることになり、建築家内藤廣さんに加わってもらうことにした。

それ以前から、皇居周辺道路や浦安境川のプロジェクトでコラボレーションデザインは行なっていたのだが、その意識はいまだ薄く、旭川のプロジェクトを通じてその意識が顕在化し始めたのだった。爾来、この意識は日向市駅や油津、堀川運河などのプロジェクトを進めるに従って確信に変り始めた。確信とは、まちづくりのプロジェクトを成功に導くためには、様々な専門家が一同に会して実践に立ち向うコラボレーションこそが、その本流にならねばならないという確信である。

平成１７年、１０年余り主催してきた「景観デザイン研究会」を発展的に解散し、内藤廣と語らって「GSデザイン会議」を立ち上げた。「土木村」から本格的なコラボレーションへ向けての、土木、建築、都市計画、ID、歴史などの各村を総合した「まちづくり町への脱皮である。この試みはそれなりの実績を有しているとはいえ、いまだ例外的な流れでしかない。前途は正直の所多難である。何よりも後進の、我々に続く若者たちの登場こそが、その将来の成否を握っている。

この度、「GSデザインユース」が発足を目指すという。心強い限りである。その発展を心から願う。ただ注意して欲しいことは、真のコラボレーションが、一人一人が強固な専門性を持ち、且つ柔軟に異分野の意見に耳を傾けることを始めて成立するという事実である。単に異なった専門家が集るのでは烏合の衆にしかならない。

専門性を高めつつ、志を持って強い個が連帯する、この精神でコラボレーションの流れを、太く豊かなものにして欲しい。



近頃の若者は何を考えているのか分からない、などと言い始めると、それはオジサンの始まりと言われるので、近頃のオジサンたちはこういう言葉を吐かなくなりました。しかし実際は、本当の所はよく分からないのです。これは当然のことだと思います。30年以上も年齢が違えば当たり前のことです。だからはっきりと宣言しておきたいのですが、わたしも若者が考えていること、悩んでいること、感じ取っていることの本当のところはよく分かりません。

しかし、人間社会の本質は、他者を理解しようとするところから始まります。もともと人間という存在は、世代間ばかりでなく個人個人も本当のところを理解し合うことが難しいものなのです。深いところにある本当の所は分からないけれど、それを前提にして理解しようと努力する、それが社会や個人を成り立たせている根っこの所にあります。だから言葉や文学が生まれたのです。

必要なのは、世代間であれ個人個人であれ、理解し得ないことを理解しようとする努力や姿勢です。表層の理解ではありません。より深いところ、背後にあるものを理解しようという努力です。より深く他者を理解しようという努力は、やがて社会への洞察力のある眼差し、異なる文化へ深い理解を持ち得る眼差しへとみなさんを導いていくはずです。景観・都市・建築にまつわるあらゆる計画も、こうした他者を理解しようとする眼差しがなくては成り立たないはずです。あらゆるデザインは、そうした理解を土台にして生まれてくるものです。さまざまな若者が集うGSユースも、お互いの意見をぶつけ合い、お互いにより深いところを理解しようと努力する集団になってほしいと思います。

年間スケジュール

４月　発足会

６月　大学セミナーハウス見学会（１泊の予定）

８月　見学会

９月　第３回GROUNDSCAPE　DESIGN　WORKSHOP

・全体総会（年２回）

（４月１９日現在決定のイベントのみ）

上記以降のイベントにつきましては、皆様の提案の上で決定して参ります。

役職

代表	井上 裕史 中村 晋一郎 岡田 惇史 中込 浩樹 丹羽 隆志
GSDW運営代表	岡田 惇史（代表兼任） 田中 毅
会計	竹山 奈未 濱元 優
広報	加藤 久樹 香川 周平 小野耕太郎

（五十音順、敬称略）

発足会プログラム

日時：２００６年４月２２日（土）１５：００－１８：３０
場所：東京大学工学部１号館 土木演習室/１４号教室

第一部　１５：００－１７：１０（土木演習室）
司会　前田　和・唐木　研介

１．論文発表

中村 晋一郎	小中学校校歌を用いた盆地空間に関する基礎的研究 ～宮崎県都城盆地を対象として～
村木 正幸	２方向地震動を考慮した鋼製橋脚の終局挙動の簡易推定法
中込 浩樹	新潟市における生活の質の定量化に基づく都市構造計画に関する基礎的研究
玄田 悠大	京都における店構えの変遷に関する研究
中嶋 伸恵	水辺空間を基盤とした地域コミュニティに関する研究
鑓溝 遼治郎	首都高速都心環状線に対するデザイン提案

２．設計発表

久保 秀朗	くくり間くぐり
檜垣 誠佑	待つ自分　冒険する知覚のための空間
岡田 惇史	北九州市門司区大里本町２丁目　母の家

展示（土木演習室）

石原 大作	P-HBBを適用した合理化吊橋の耐風安定性検討
上田 孝明	かたち
小野 耕太郎	STRINGS WALL

第二部　１７：３０－１８：３０（１４号教室）
司会　加藤 久樹・檜垣　誠佑

１．はじめに
２．発足宣言
３．代表承認
４．GROUNDSCAPE DESIGN WORKSHOPの歩み
５．関連団体の活動紹介
・九州デザインシャレット
Kyushu Landscape League(KL2)
・景観開花。
６．WORKSHOP参加者の活動の広がり
７．浦安境川見学会報告
８．次回企画告知
９．篠原先生のお言葉
１０．決意表明
１１．おわりに

懇親会　１８：３０－２０：００

懇親会について
発足会終了後、
隣接の会場（同館１３号教室）で懇親会を行います。
・参加費　１５００円
・時間　　１８：３０（発足会終了後）－２０：００

発表者紹介

中村晋一郎

小中学校校歌を用いた盆地空間に関する基礎的研究

学校校歌の歌詞はその地域の地形や地物を表現していることから、その地域の景観的特長を詠ったものが多く、景観構造を把握することに適していると考えました。また、僕は宮崎県都城盆地の出身で、盆地のもつ特有な景観への関心が幼い頃からありました。よって、一つの区切りである卒業研究の題材として盆地景観を扱う事を考え、景観解析ツールとして校歌を用い、都城盆地内の景観構造についての研究を行いました。

村木正幸

２方向地震動を考慮した鋼製橋脚の終局挙動の簡易推定法

水平２方向地震動成分の連成を考慮した地震時挙動の予測には、シェル要素を用いたＦＥＭ解析により精度よく予想することができるが、多大な時間や豊富な経験を必要とする。一方で簡易な１自由度系の復元力モデルも提示されていが、この方法は、算の簡易化やそれに伴う時間の短縮などに利点があるものの、地震動の２方向相互作用は考慮されておらず、耐震性を表す指標を過大に評価する可能性を有していた。本研究では、従来の復元力モデルに、これらの連成の影響を組みことにより鋼製橋脚の地震時終局挙動の予測精度を向上させる。

中込浩樹

新潟市における生活の質の定量化に基づく都市構造評価に関する基礎的研究

今後、都市は人口減少を始めとする社会的変化に直面する。そのため、都市には将来への明確な方向性が必要であり、その評価手法として生活の視点が欠如していることに着目する。
生活というものはその評価過程や求めるものが地域によって大きく異なることは明らかであるため本研究では、都市内に多様な特性を有する地方中心・中核都市に着目して研究を進め生活の質を定量化する手法としてQOLAを明示しその定式化を行う。その上で生活の質を定量化する手法を用い、都市構造と生活の質を関連付け都市構造を評価する手法、及びその有効性を提示している。

玄田悠大

京都における店構えの変遷に関する研究

本研究は、京都における店構えの変遷について、室町時代以前と大正時代以降は様々な文献から大まかな流れを把握し、室町時代から明治時代までは町田家本洛中洛外図・上杉家本洛中洛外図・舟木家本洛中洛外図・池田家本洛中洛外図・京雀・京雀跡追・都の魁、の7絵図を用いて業種ごとの店構えの流れを導き、それらを統合して業種と店構えとの関係性を考察したものである。

中嶋伸恵

水辺空間を基盤とした地域コミュニティに関する研究

本研究の対象地、岐阜県の山間部に位置する郡上八幡は、古くから「水のまち」として有名な地域であり、巧みな水辺利用によって、豊かな文化や伝統的な水辺景観を形成してきた。しかし近年古くから継承されてきた水辺利用が衰退し、伝統的な水辺景観が失われつつある。本研究は郡上八幡の水辺空間を対象とし、地域コミュニティの構造と成立過程及び、その維持要因を明らかにするものである。そして、今後の歴史や文化を反映した水辺空間整備や都市計画、地域計画の支援を目的とする。

鑓溝　遼治郎

首都高速都心環状線に対するデザイン提案

首都高速道路は供用開始以来、我が国の経済を支え続けてきたが、現在は高度成長の負の遺産として見なされ〝諦められた日常の風景〟となっているのではないか。しかしこのような風景を魅力あるものにしなくては都心部における豊かな生活は実現しない。中でも首都高速都心環状線は老朽化が進み、近い将来本格的な更新の時期を迎える。そこで本研究では、都心環状線を現代の視点から捉え直し、改善の為のプロセスと新たなデザインの提案を行う。

発表者紹介

久保秀朗

くくり間くぐり

　天井をテーマにした建築を考えました。バリアフリーへの意識の高まりから、床に段差をつけて空間を分節するという床のデザインは、特に公共施設においてしづらくなってきています。そのような社会背景から天井のデザインに着目しました。垂れ壁によって、それぞれの部屋をくくりとるという空間構成の福祉センターを計画しました。

檜垣誠佑

待つ自分　－冒険する知覚のための空間－

　「俺ってなんだろう」という漠然とした問を前に自分を観察してみて見つけた「待つ」という行為の不可解さが気になりました。そして私は「待つ」あいだ、知覚が拡張していることを発見しました。
また、おかしな社会を目の当たりにし、「まちづくり」の前に「人間づくり」だと直感しました。そこで生活の中に不意に現れる「待つ」を知覚の冒険へと変換するとともに、知覚が拡張される空間を考えつくすことに挑戦しました。

岡田惇史

北九州市門司区大里本町２丁目母の家

　リンパのがん摘出後、病室に横たわる母の横で、僕はどうしようもない無力感を感じていました。
いったい今迄勉強して来た建築で、何か母の為に出来る事があるのだろうか。
今自分にできる精一杯の家を母の故郷に建てて封筒に入れてプレゼントする。
終の住処を考えるにはまだ若すぎますが、こんな感じになりました。

石原　大作

P-HBBを適用した合理化吊橋の耐風安定性検討

　低コスト・ユニット化を目的として開発された主桁形式であるP-HBBを吊橋に適用し、試設計、耐風安定性検討を行いその実現可能性を照査する。
具体的にはハンガー間隔・メインスパンをパラメータとし、計９ケースの吊橋を試設計しフラッター解析を行った。

上田孝明

かたち

　「かたちという言葉には、表層的なことではなく実質や実体そのものを指すという意味あいがある。かたちそのものが意味を伝え、わたしたちはそのはたらきを認識している。日常生活にありふれたかたちにもまた、そのものの持つ本来のはたらきが込められている。つまりかたちとは 本質そのものである。」という趣旨のもとに、日ごろ最も身近などうぐのひとつである「うつわ」を通して言語のはたらきを視覚化した。

小野耕太郎

STRINGS WALL

　人は他人と同じ空間を共有して過ごす時、周囲の存在と繋がり、その気配に対しての意識から安心感と落ち着きを得られる。
　STRINGS WALLは、面状に張られたチューブの起伏によって棚板上につくられるフトコロスペースが、隣人との適度な距離感を生み出し、空間を緩く分けつつ気配を伝え両面の関係を繋げてゆくしきりである。

GROUNDSCAPE DESIGN WORKSHOPの歩み

GROUNDSCAPE DESIGN WORKSHOPは、2004年度より全国の土木、建築、都市、デザイン系の学生等を対象とするデザインコラボレーションの鍛錬の場として開催されています。2004年度は36名、2005年度は35名の学生等が全国から参加し、分野の枠を超え、ともに汗を流しました。

両年度ともに課題内容は、東京駅前広場及び行幸通り周辺空間のトータルデザインであり、土木・建築・都市・IDの各分野の第一線で活躍される講師陣によるレクチャーとエスキースを経て、一週間後の最終講評に臨むというスケジュールで行われました。参加者は、4〜5人ずつのグループを組み、協同作業の中で各々の分野の強みを活かした議論・提案を行いました。
また、2005年度は設計事務所などで実務を行っている方々に各グループのチューターを担当していただき、深夜まで熱心なアドバイスをいただきました。一週間という短い時間をフル活用し、それぞれのグループが、それぞれのデザインの結果を出しました。
最終講評後も作業は続けられ、各グループの成果はパネルにまとめられ、2004年度は日本工業倶楽部にて、2005年度は大手町カフェにて展示されました。

3年目を迎えるGROUNDSCAPE DESIGN WORKSHOPですが、今年度よりGROUNDSCAPE DESIGN youthが企画・運営を担当させていただきます。皆様のご協力を謹んでお願い申し上げます。

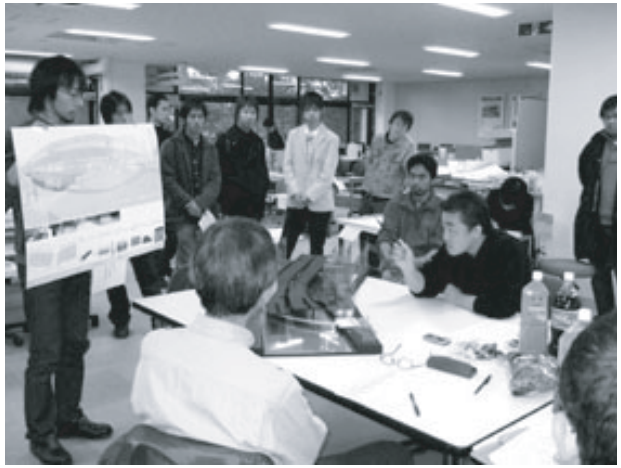
九州デザインシャレット/Kyushu Landscape League(KL2)

シャレット（charrette）とは英語で、専門家が集まって短期集中型で議論し成果を出すという意味で使われる言葉です。
本企画は、将来まちづくりや建設分野に携わる様々な専門分野の学生・若手技術者を対象とし、異分野との共同作業を体験させる機会を広く提供することを目的としています。また、この企画は(1)設計課題に実際のまちづくりの課題を取り入れる、(2)対象地域近辺での合宿形式による演習とする、(3)学生が主体的に企画の準備・運営を行なう、が特徴です。
2005年の対象地は、行政と市民が一緒になって港湾計画を検討している佐賀県唐津市としました。『市民のためのウォーターフロントデザイン』をテーマとして、7泊8日の設計演習が実施され、総勢29名の参加者が唐津港の将来像を考えました。この成果は図面や模型の形でまとめられ、発表会や唐津市役所での展示を通じて、広く地元への話題提供となりました。

KYUSHU
www.kyushu-dc.com
DESIGN
CHARRETTE

景観開花。

『景観開花』：土木事業が量から質への転換を求められる現代において、次世代を担う若者から現役の土木技術者、ひいては 一般市民に対して土木デザインの可能性を示すことを主旨に、2004年度より、設計競技並びにパネルディスカッション、展示会等を行ないました。今年度以降も是非継続して開催したいとの意向を踏まえ、過去の設計競技の内容を中心に、その他運営に関する事や今後のビジョン等を紹介します。



景観開花。
～土木デザインの再構築～

イベント

◉GSDWⅠ　　36名。

◉おでん屋台パーティ2004@丸の内
総勢約15名。凍える中集まった。

◉吉阪隆正展2004
小林、加藤、丹羽、中込、井上、小野、安藤(Ⅰ)が油土と格闘し八王子大学セミナーハウスを製作。この時の縁で、唐木がGSDWⅡに参加。

◉GSデザイン会議発足シンポジウム＆GSDWⅠ期同窓会
総勢20名以上＋講師陣
老若入り乱れての居酒屋談義。

◉GSDWⅡ
35名。奥田、中村、丹羽(Ⅰ)がサポート

◉九州デザインシャレット／KL2
事務局：竹林、牟田口、増山(Ⅰ)
参加者：岡田、北(Ⅰ)、前田、香川(J)

◉景観開花事務局
事務局：篠田、松田、佐藤(Ⅱ)

◉おでん屋台パーティ2005@丸の内
Ⅰ期Ⅱ期計約20名＋中井さんも乱入

◉卒業設計
久保(Ⅰ)←宮村(Ⅱ)が手伝う

コンペティション

◉都市のファサード
Ⅰ期B班４人が挑戦。

◉岩見沢駅舎コンペ
吉阪展の勢いで井上、加藤、中込、丹羽(Ⅰ)が部屋を借りて実施コンペに挑戦。

◉景観開花
・井上(Ⅰ)＋小野田、福島(景観研)
・中村(Ⅰ)

◉鎌倉駅前まちづくりコンペ

講演会・見学会・旅行

◉さまざまな講演会
講演会に行くたびに誰か知り合いがいる。

◉妻有松之山-棚田保存稲刈り旅行
久保田、唐木、濱元(Ⅱ)、小野、丹羽(Ⅰ)、貴志(景観研)が新潟の棚田で汗を流した。砂防ダム、十日町情報館（内藤廣設計)を見学

◉プレイベント：境川見学会

アルバイト・研修

◉小野寺康都市設計事務所
所員：幸田(Ⅰ)
アルバイト：荻野(Ⅰ)、濱元(Ⅱ)、前田(J)

◉ワークヴィジョンズ
アルバイト：鑓溝、窪島(Ⅰ)、香川(J)
長期アルバイト：伊東(Ⅰ)、唐木(Ⅱ)

◉ナグモデザイン事務所
長期研修：北(Ⅰ)

◉アトリエ74
アルバイト：中込(Ⅰ)、香川、前田(J)

◉eau
共働：丹羽(Ⅰ)
アルバイト：田中、小野、鑓溝(Ⅰ)

◉海外へ
安藤、大島、長田(Ⅰ)

ワークショップ＆準備会 参加者の活動の広がり

・GSDWⅢを通しての交流

・制作活動を通しての交流

・デザイン成果、研究成果の発表の場の創出

・GSデザイン会議の先生方による指導を受ける機会

・異分野のチーム戦

・まちづくりの提案

・講師の依頼

・施設への見学のお願い

・講演会情報の提供（GSデザイン会議）

・自己研鑽の場へのきっかけとして

GSDyとしての活動への発展

GROUNDSCAPE DESIGN youth

浦安境川整備事業見学会「今昔と環境デザイン」

先駆者のコラボレーションとはいかなるものなのか。
この整備事業を「時間軸」と「住民の視点」で考えてみる。

スケジュール

−第一部−

10:00　東京メトロ東西線「浦安駅」集合
10:20　猫実川見学
10:40　浦安市郷土博物館見学
・「浦安のまち」屋外展示場
・「海を駈ける」船の展示室
・「海とともに」テーマ展示室
12:00　各自昼食　(駅へ移動)

−第二部−

13:00　東京メトロ東西線「浦安駅」集合
13:30　旧大塚家住宅・旧宇田川家住宅見学
15:00　未整備地区(Bゾーン)へ移動
15:30　整備地区(Cゾーン)見学
17:00　懇親会

浦安境川見学会参加者

宮村綾乃　:関東学院大学大学院工学研究科建築学専攻
鬼頭直美　:九州大学大学院芸術工学府芸術工学専攻環境計画部門(特)
黒岩考自　:九州芸術工科大学芸術工学部工業設計学科OB(特)
楠　裕介　:群馬大学工学部建設工学科(特)
北沙耶香　:高知工科大学大学院工学研究科基礎工学専攻
江口亮平　:埼玉大学工学部建設工学科
中村晋一郎:芝浦工業大学工学部土木工学科
竹山奈未　:東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻
田中　毅　:東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻
前田　和　:東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻
唐木研介　:東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻研究生
井上裕史　:東京芸術大学大学院美術研究科デザイン専攻
小野耕太郎:東京芸術大学大学院美術研究科デザイン専攻
加藤久樹　:東京芸術大学大学院美術研究科デザイン専攻
岩佐　透　:東京電機大学建設環境工学科
村木正幸　:名古屋工業大学社会開発工学科
上田嘉通　:早稲田大学大学院理工学研究科建設工学専攻
中込浩樹　:早稲田大学大学院理工学研究科建設工学専攻
宮下真紀子:早稲田大学大学院理工学研究科建設工学専攻(特)
鎌溝源治郎:早稲田大学大学院理工学研究科建設工学専攻
佐々木哲也:早稲田大学理工学部社会環境工学科(特)
安仁屋宗太:有限会社eau(特)
奥田真弓　:sasugative design inc
幸田広穂　:小野寺康都市設計事務所
小林　滋　:フリーランス
太刀川寿子:グリーンアンドアーツ(特)
丹羽隆志　:フリーランス

＊(特)＝(特別参加)

川は人にとって身近な存在ではなくなってしまった。

予想以上に楽しかったようです・・・

「浦安 境川」見学会を通じて

小野寺康（小野寺康都市設計事務所・代表）

境川の現場を案内する機会は、過去に少なからずありました。
土木設計、都市デザインを志向する、「GSデザインユース」の学生たちが現場を見たいと聞いて、「ああ、いいですよ」と最初は特別なものは感じていませんでした。初回の打合せということで、私の事務所に、責任者の井上君と前田さん、宮村さんがやってきたときも、今思えば失礼ながら、手ぶらで来て「資料ください」といわれることを予期していました。ところが、このときすでに彼らは、周到なフィールドワークと文献調査を重ねた、まともな資料を携えてきたのです。これは予想外であり、初めてのことでした。
また、この見学会を通じて彼らには何か伝えたいものがあるらしい。そういう「意図」のある議論は創造的です。打合せは次第に脱線して、様々なデザインの緒論に及んだことを覚えています。純粋に彼らとの議論は楽しかった。

見学会の当日は、さらに完成度の高い資料が配布されました。
午前中は資料館に行くなど、町の歴史的素地を体験してきたようです。私の案内は午後からでしたが、すぐに行程のいちいちに企画者の「狙い」があり意図があることが知れました。これは「デザイン」といっていいかもしれない一種の創造的行為だと思い至りました。
井上君は「時間軸に沿って、住民視点で整備事業を評価するストーリー」といっているようですが、その意図はよく分かりました。よく練られたプログラムは、資料内容、ルート及び時間設定によって、参加者に「空間体験」としての実体を与えようというものでした。自分たちが先に現場から感じた何かを、参加者にも伝えたい、共有したい――。
しかもそこに、押し付けがましさは微塵もありません。
当日の私は、彼らのプログラムの意図を読み取って動く、アクターのような役割であると認識しました。
「君たちが説明するといい。僕はそのサポートをするよ」
たしか、井上君らにそういったと思います。
彼らのサーベイは相当に正確でしたので、私の補足説明は、畢竟当事者しか知らない暴露話に陥りがちでした。そういう「ここだけの話」が、設計者から直接現場で語られるというのは、それはそれで興味深いものものかもしれません。興が乗ったか、学生たちの質問は矢継ぎ早やで熱心で、そして真摯でした。
見学会が終わって、夕方からは居酒屋で食事になりましたが、彼らの質問攻勢は依然として止まない。我ながら良くしゃべった（しゃべらされた）一日でした。あとで、井上君に「三日分しゃべったぞ」と伝えましたが、ちょっと少なすぎたくらいです。しかし、疲弊した気分はなかった。心地いい充実感がありました。「成功だ！成功だ！」と祝うみんなのニコニコ顔が印象的な夜でした。

その後しばらくして、彼らがまた事務所にやってきました。見学の成果を冊子にとりまとめたので私に何か書けという。
ゲラを見ると、当日の記録が、写真と文章のコラージュになっており、その構成がまず面白い。それよりも私には、そこに写っている参加者の表情がいずれも実に朗らかで、自分はもしかすると境川を訪れて楽しく過ごしてくれている人たちの姿をこれほどまとまって見たのは初めてかもしれないことに気づきました。
この冊子はどうやら私の宝物になったようです。

私はずっと、自身に問いかけながら設計を、カタチを、現場を追求してきました。
この「浦安 境川」というプロジェクトは、独立前後にまたがる、まさに自身のデビュー・プロジェクトであると同時に、未だに完成を見ていない、現在進行形の現場です。それだけに思い入れも深く、浦安という街そのものにも特別な愛着を持っています。
しかしこのプロジェクトは、住民との議論を全く経ずに実現しました。篠原修先生と南雲勝志さんと私、というデザインチームが、事業主体である浦安市及び千葉県と、議論を重ねながら設計しました。少なくとも設計者である私は、住民の声を直接は知らない。現場に入っては、職人さんやメーカー・エンジニアが、熱意を持って継続的に関わってくれました。そのおかげで、このプロジェクトのクウォリティは保たれているといっていい。しかし、そういう事情です。
ろくにメディアにも発表されていない（土木デザインのメディア自体がまず稀有である）このデザインが、この浦安の町に、そしてこの現代社会に、何か与えたものがあったのかどうか、漠とした気分でいたことを白状します。
その後、住民が自主的に「境川まつり」を運営し始めてこれが定着し、またカヌー・イベントの会場にも利用されているといった、情報は持っていました。2004年度に、東大景観研究室の安仁屋君が、このプロジェクトの事後評価をしてくれ、この研究によって、自分が想定していた結果がほぼその通りに実現しているという確証を得ることができた。これもまた望外の喜びでした。
しかし、実際に時間と空間を共有して、自分が関わったデザインを大勢の人たちと分かち合うという体験は、私にとって実に新鮮なものだったのです。「報告書」がそれを再認識させてくれました。ここに寄せられたメッセージには、ネガティブなものもいくつか含まれています。しかし、それすらも、私自身には嬉しい。
たかが見学会なのに。
しかし、たかが見学会だからこそ、このような手ごたえを与えてくれたGSユースという運動体の可能性を、強く感じられた日でした。
あの日は寒かった。
しかし晴れ晴れと、とても気持ちのいい一日でした。
私の胸の中にも、思いがけず、はろやかな風が吹き抜けたような気がしました。

2006年　初春

合宿 in 八王子大学セミナーハウス
「Feel the Ground!」

まずは合宿でしょ！そんな誰かの言葉から始まったこの企画。
そこで人格的ふれあいを実現するためにつくられた大学セミナーハウス。
「不連続統一体」という思想をもつ吉阪隆正が
大地の上につくりあげたその場所で、
老若入り乱れて熱い夜を過ごしませんか。
お互いのことを知って、そして自分に気づく、
そんな良い機会になればいいと思っています。

昼間
- 吉阪の創り出した、建築と大地＝Groundを感じる仕掛け

夜
- ゲストを囲んでゲストの青年期=Groundについて聞く予定です。また杯を片手に親交を深め、僕たちのGroundを創っていきたいと思います。

日　程：6月10日(土)〜11日(日)
場　所：八王子大学セミナーハウス
仕掛人：丹羽隆志・中込浩樹・小林滋

ただいま仕掛人を募集中です。吉阪に興味のある方、よくわからないけど、面白そうだぞ、という方。一緒に学んでみませんか？

◉吉阪隆正展2006 「頭と手」京都展　5月31日まで

GSユースのメンバーがつくりあげた大学セミナーハウスの油土模型を見て、大地と建築のつくりあげる世界を体感して下さい。また九州展も6月10〜24日に開かれる予定です。

場所：京都工芸繊維大学・美術工芸資料館
（京都市営地下鉄烏丸線「松ヶ崎」駅より徒歩５分）

会期：5月31日まで
10:00〜17:00（日休、4/29,5/3,4,5は開館）

GROUNDSCAPE DESIGN youth 発足準備メンバー

石原大作	井上裕史	上田嘉通	江口亮平	岡田惇史	奥田真弓
小野耕太郎	香川周平	加藤久樹	加藤裕子	北沙耶香	久保秀朗
窪島智樹	塩澤健太郎	塩澤諒子	篠田健	島津翔	竹林知樹
竹山奈未	田中毅	照井丈大	唐木研介	中込浩樹	中村晋一郎
西村亮彦	丹羽隆志	濱元優	橋詰知尚	檜垣誠佑	前田和
宮村綾乃	村木正幸	山田裕貴	鑓溝遼治郎		

（五十音順、敬称略）

GROUNDSCAPE DESIGN youth 企画提案書

記入日　　年　　月　　日

企画名			
企画者（分野）	氏名	所属	※専門分野を〇で囲む
発案経緯			
企画概要			
開催時期			
開催場所			
ゲストの氏名（必要な場合のみ）			
予算（全体）	合計（概算）	内訳	
参加予想人数と一人当たりの参加費	参加人数（目安）	一人当たりの参加費	
備考（特別予算の申請等）			
運営会記入欄			

GROUNDSCAPE DESIGN youth入会申請書

この度、GROUNDSCAPE DESIGN youth発足に当りまして、本組織への入会のご案内をさせて頂きます。本組織は会員の方々へ、発足意義を踏まえた各種イベントの実施、GSデザイン会議のメールニュースの配信等を今後予定しております。また、会員の方々からの要望による企画の実現を可能な限り実施していくことも考えております。
本組織は数多くの方々のご入会こそが、組織としての価値であり、将来への可能性の広がりであります。事務局一同、皆様のご入会を心よりお待ち申し上げております。

入会方法：この申請書に年会費を添えて受付にお渡しください。

※年会費につきましては、本組織運営の必要経費の一部に当てさせていただきます。

GROUNDSCAPE DESIGN youth入会申請書

氏名：　　（ふりがな：　　）

所属：（大学）　　大学　　学年（卒業年度）

（会社）　　分野

ご連絡先　　社会人の方は卒業大学名もお願いします↑

住所：〒

電話番号：　　（　　）

E-Mail(PC)：

GROUNDSCAPE DESIGN youth 発足会パンフレット
2006年4月22日 発行

企画：GROUNDSCAPE DESIGN youth 発足会準備メンバー

デザイン・編集・印刷製本：檜垣誠佑+宮村綾乃+鑓溝遼治郎

URL : http://www.groundscape.jp/youth/
Mail : info_youth@groundscape.jp